

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成26年 4月30日

大分県知事
広瀬 勝貞 殿

提出者
住 所 大分県佐伯市字鳥越10101番地の1
氏 名 中央生コン株式会社
代表取締役 岡本 金寿
電話番号 0972-29-2111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	中央生コン株式会社
事業場の所在地	大分県佐伯市字鳥越10101番地の1
計画期間	平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	製造業
②事業の規模	500,000,000円
③従業員数	12名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	残コン発生→安定するまで保管→運搬委託者(マニフェスト) (委託内容) 安定型→運搬受託者(マニフェスト)→積み込み



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

残コン発生→安定型になるまで保管→運搬受託者へ運搬の依頼（マニフェストの発行）→
→積み込→処分場へ排出（マニフェストA・B2）の管理

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 25 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず	
	排 出 量	2,596 t	t
	（これまでに実施した取組） 例年であれば年間600 t～900 tの産廃排出状況であったが 昨年度は、東九州道の前倒しの影響で急激な工事発注が 進み、現場数も増えコンクリートの出荷も多く、それにともない 残コン（産廃）が大幅に増えたのが原因であった。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず	
	排 出 量	600 t	t
	（今後実施する予定の取組） 今年度からは、生コンクリートの出荷も大幅な減少が想定され、 残コンも500 t～700 t程度と見込まれる。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 25 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 25 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) なし			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 25 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	全処理委託量	2,596 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	2,596 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず	
	全処理委託量	600 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	600 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>今年度からは、生コンクリートの出荷量も大幅な減少が想定され、 残コンも500 t～700 t程度と見込まれます。</p>			
※事務処理欄			